

< 仙台国税局長賞 >

税金と保育

福島大学附属中学校 三年 尾崎 愛実

私は赤ちゃんや子どもが大好きです。小さな子どもたちの笑顔を見ると、可愛くて幸せな気持ちになります。将来は保育士になり、たくさん子どもたちに囲まれながら保育の仕事をしたいと思っています。

しかし、現在の日本は少子化が進んでいます。その対策の一つとして、二〇一九年から「幼児教育・保育無償化」が始まりました。それまで保護者が払っていた利用料や保育料が自治体を通して税金で賄われるようになったのです。

この対策を行うことでなぜ少子化を改善できるのでしょうか。

一つ目の理由は、子育てをする人の世代の経済的負担を軽くすることで、子どもを持つことへのためらいや不安を減らすことができるからです。

二つ目の理由は、生涯の基礎を培うための質の高い幼児教育を子どもに受けさせることができるので、安心して子育てをすることができるからです。

私も一歳の頃から保育園へ通っていました。

「十年前も無償だと良かったなあ。」

と母が言っていました。私もいつか大人になり、自分の子どもを育てる時が来るのだろうと思います。私たちが納めている税金が、子育てのしやすい環境をつくるために使われていることはとても嬉しいことです。今後も、いろいろな政策が立てられ、さらにより良い環境になっていく期待もあります。

他にも、「幼児教育・保育無償化」を行うことのメリットはたくさんあります。

保護者が、子どもを保育施設に預けて働くことで収入が上がり、所得税や住民税での税収が増えます。その税金をまた、何か良いことに使うことができます。

また、質の高い教育を受けた子どもたちは大人になった時に安定した収入を得ることができると考えられます。このことは貧困率を減らすこととなり、健康を保つこと

や治安をよくすることにつながります。さらに、考える力が身に付くことで何か素晴らしいことを生み出せるようになります。

このように、「幼児教育・保育無償化」は対象となる保護者や子どもたちのためになるだけでなく、社会全体が良くなることにも貢献している。

税金による政策にはたくさんのメリットがあるので、私も嬉しい気持ちで税金を納めていきたいと思います。また、国や県や市の政策に加え、私も将来保育士となって社会をより良くしていくために働きたいです。子どもたちに質の高い保育を提供するために、保護者が安心して子どもを預けて働けるような環境をつくるために、これからしっかり保育士としての知識や技術を身につけ、社会に貢献できる保育士を目指していきたいです。